

# JWSF

Japan Wheelchair  
Seating Foundation

## 日本車椅子シーティング財団

### 財団通信 2023 秋号

2023年8月29日 第13号

一般財団法人日本車椅子シーティング財団、〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-10-1 カクタビル2F

<http://www.wheelchair-seating.org/> e-mail:info@wheelchair-seating.org

## INDEX

- 1 福祉用具貸与目・販売種目のあり方検討会の議論
- 2 認知症ケア学会 報告
- 3 シーティングセミナー開催のご案内
- 4 編集後記 事務局

## 1. 福祉用具貸与目・販売種目のあり方検討会の議論

国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野 教授 東島 弘子

厚生労働省の「介護保険制度における福祉用具貸与目・販売種目のあり方検討会」(以下検討会)が7月20日、開催されました。検討会は昨年2月から始まり、9月に中間整理を取りまとめていました。それから1年近くがたち、「安全な利用、利用の適正化、貸与と販売種目のあり方」の3点を軸に、さらに議論を進めるために開かれたものです。車いすシーティングと検討会の議論とに直接のかかわりはないですが、介護保険での福祉用具のあり方の議論なので、報告します。

7月20日の検討会では、昨年の中間報告を踏まえて、安全な利用と適正化については、①福祉用具事故報告様式の貸与事業所に対する活用の周知、②厚労省が実施する都道府県担当者を集めた全国課長会議等で、消費生活用製品安全法に基づく福祉用具の重大事故の周知徹底、③福祉用具専門相談員によるモニタリング時期の明確化、④自治体向け点検マニュアルの作成、⑤「福祉用具の選定の判断基準」(以下ガイドライン)の見直し、⑥福祉用具専門相談員指定講習カリキュラムの見直しなどが対応方針として挙げられ、個々の委員からはさらなる充実や意見が出されましたが、方向性としては賛同が得られました。

ガイドラインは、昨年9月の中間報告で見直しが提言されていたものです。そもそもガイドラインは2004年に「介護支援専門員が居宅サービス計画に福祉用具を位置付ける場合等における標準的な目安」となるように作成されたものです。その後の種目の追加等や例外給付の場合の留意事項の例示、多職種連携に資するようにはしてほしいとの意見から、見直しを行うものです。

昨年の中間報告では、手すりなどの一部の種目について貸与か購入かを利用者が選択するという選択制について、可能かどうかの検討を自治体へのアンケートや利用者負担など幅広い観点から更に検討するとなっていました。この選択制については、今回の検討会でも保険者の委員からは強く



### profile

東島弘子(ひがしはたひろこ) / 国際医療福祉大学大学院 教授。博士(医療福祉経営学)。社会福祉士。高齢者の福祉用具利用、介護保険制度や福祉用具流通、福祉用具のヒヤリハットなどが研究分野。厚生労働省福祉用具における貸与・販売種目のあり方検討会委員。消費者庁消費者安全調査委員会委員。2022年度より当財団理事。

求める意見が出されましたが、慎重意見も多く、さらに次回の議論に持ち越されました。

筆者は委員として参加しています。選択制に限らず、販売であったとしても、利用者の購入後の福祉用具専門相談員による状況確認(モニタリング)は、安全な利用のために必須と考えて、発言してきました。また、選択制を利用開始時に、利用者が判断できるかという疑問を持ちます。仮に選択制にしたときも、一定期間の貸与後に、貸与か販売かを利用者が判断したほうが、利用者にとっても安心であると考えます。検討会の議論は集約され、来年の介護報酬改定を審議する介護給付費分科会の議論などに反映されます。車いすシーティングの報酬への位置づけの場合は、この検討会を経るかどうかは不明ですが、介護給付費分科会の議論の俎上に乗る必要はあります。

## 2. 認知症ケア学会 報告

一般財団法人日本車椅子シーティング財団 代表理事 木之瀬 隆



### profile

木之瀬隆 (きのせたかし) / 日本医療科学大学健康医療学部  
リハビリテーション学科作業療法学専攻長教授を経て2012年より(株)シーティング研究所代表取締役。作業療法士。研究テーマは高齢者のシーティングと褥瘡予防、義肢装具等のリハビリテーション機器に関する研究、介護保険の福祉用具選定・適合に関する研究等。2019年度より当財団代表理事。

2023年6月3日(土)～4日(日)に国立京都国際会館にて日本認知症ケア学会が開催されました。学会のミドルセミナーで認知症ケアにおけるシーティングとして、多職種連携の車椅子シーティングによる安全安心なケア環境をつくると題してセミナーをおこないました。以下に、抄録の一部と事例報告をいたします。

介護保険の介護報酬に2021年4月よりシーティングが入り、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、介護老人保健施設、介護医療院、介護療養型医療施設について、介護報酬が算定できるようになりました。高齢者ケアにおけるシーティングとは、「体幹機能や座位保持機能が低下した高齢者が、個々の望む活動や参加を実現し、自立を促すために、椅子や車椅子等へ快適に座るための支援であり、その支援を通して、高齢者の尊厳ある自立した生活の保障を目指すもの」と定義されています。また、「椅子に座る」という暮らしの保障が記載されており、認知症ケアにおいて、安全性の高い安心できる環境を整えるために、シーティングを多職種連携でチームを作る時代となりました。

認知症におけるシーティングとは、認知症のあるご本人が落ち着ける環境を整えるために、座り心地のよい椅子環境や車椅子環境を身体状況や認知症の状態に合わせて評価して対応することです。認知症の症状にもよりますが、身体の状態や身体寸法に合わない椅子では落ち着きがなく徘徊や急に立ち上がる動作がみられた利用者が、身体に合った椅子や車椅子を使うことで問題行動が軽減することはよく経験することです。

認知症の中核症状の健忘症、多動、徘徊、失見当識がみられる状況で、歩く機能が残っている場合は、「安心」できる環境として「座り心地のよい椅子・車椅子」が必要となり、立ち上がりや座る動作の安全性が椅子に求められます。多動や徘徊の原因はさまざまありますが、身体のどこが

らいのか？どのような姿勢でいるのか？そのようなことがわかる能力を専門用語では体性感覚といい、人が無意識下でも感じられる感覚で認知症のある人でも残る感覚です。次に、実用性歩行機能のない人や寝たきり状態の人には、臥位のポジショニング、車椅子シーティングの対応と一日の離床時間・回数を含めたケアプランが必要になります。写真の事例は認知症があり椅子の寸法が合わずすべり座りになるために食事が十分にとれない方でした。椅子の寸法を合わせ、テーブルも調整することで食事動作が自立しました。



- 椅子サイズ  
椅子前座高：44cm
- すべってしまうため足組
- 左に傾く座位姿勢
- 食事には数回すべり座りの修正

- 高齢者椅子（ペルチェア）
- 前座高：38cm ・座位殿幅：35cm
  - 背張り調節：円背に合わせて
- 身体寸法：座位臀幅 33cm、座底長 47cm  
座位下腿長 38cm（靴）
- 背張り調節：円背に合わせて
  - 安定した座位姿勢
  - 基本座位姿勢



食器の中が見える。  
身体を前傾して箸を使う。

### 3. シーティングセミナー開催のご案内

介護保険制度施行後、街中で車椅子に乗って移動する姿を昔よりは見かけるようになり、シーティングに関する団体も増え研修会も行われるようになりましたが、適切なシーティングが十分に行われている状況にはないのが現実ではないでしょうか。在宅でも、施設でも、適切なシーティングが行われるようになるためには、何がボトルネックになっているのか、どのような対応策があるのか、パネラーの方々それぞれの立場から意見をお聴きし、皆で今後の取り組みを考えていきたいと思っております。ぜひご参加ください。

セミナー詳細は次ページをご覧ください。

セミナーテーマ

こちらのQRコードからお申込みください。



参加費：賛助会員（法人・個人）無料、非会員 3000 円

\*非会員の方は、これを機会に入会（年会費 3000 円）頂くと参加費無料になります。

定員：会場 20 名、Zoom 80 名  
定員になり次第、締め切らせていただきます。

録画配信は財団 HP より会員向け配信予定。この機会に会員登録をお願いします。

Eメール：

japanseating@gmail.com

電話：03-3677-7668

当日の連絡先：090-9849-0869

## 「どうすれば介護保険制度でシーティングを普及させることができるか」

主催：一般財団法人日本車椅子シーティング財団

日時：2023 年 10 月 14 日（土）

13：00～16：30（12：30 より受付）

会場：東京都中央区日本橋堀留町 1-10-1 カクタビル 2 階会議室

セミナー形式：会場少人数参加 + Zoom でのリアルタイム配信  
（後日録画配信あり）

### 〈プログラム〉

司会：財団副代表 加島守 財団評議員長 高木憲司

- ① 13：05～13：35 基調講演  
国際医療福祉大学大学院 教授 東畠弘子氏
- ② 13：35～14：00  
元厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官  
現アルジヨ・ジャパン株式会社 山下陽子氏
- ③ 14：00～14：25  
居宅介護支援事業所ケアマネウイズだいこの花 主任介護支援  
専門員 東京都介護支援専門研究協議会前理事長 小島操氏  
～休憩～
- ④ 14：35～15：00  
関川愛広苑 シーティング・コンサルタント 作業療法士 二村淳子氏
- ⑤ 15：00～15：25  
日建リース工業株式会社 介護事業本部 阿部和哉氏
- ⑥ ディスカッション 15：25～16：15（加島・高木・東畠コメント）  
16：30 終了

### 【編集後記】

6 月から続く猛暑。国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化は終わり地球沸騰の時代が到来した」と警鐘を鳴らし、「気候変動の最悪の事態を回避することは、まだ可能だ」と発言した記憶も新しい。事実、日本でも、猛暑日の日数は過去最高を更新し続けています。今年は蚊が少ないなあと、思って専門家に聞いたら、蚊は気温 25℃～30℃に活動が最も活発化し、35℃を超えるとほとんど活動しなくなるとのこと。蚊も活動できない暑さということだと妙に納得したことを覚えています。こうなると、冷房は贅沢品ではなく、生活必需品、むしろ生命維持装置と言っても過言ではありません。体温調整機能が失われた方々やモールド型の座位保持装置で生活されている方々の苦労は如何許りかと、想像します。車椅子や座位保持装置にもメッシュ素材やクール素材などが使用されるようになって久しいですが、今年の HCR では、どんな新しい製品や素材が登場するのか楽しみです。HCR は、9 月 27～29 日、東京ビックサイトで開催されます。ぜひ来場ください。事務局 川畑善智

ファイル名 : 修正 2023 年秋号⑤ (3).docx

フォルダー :

/Users/kawahatayoshitomo/Library/Containers/com.microsoft  
.Word/Data/Documents

テンプレート : /Users/kawahatayoshitomo/Library/Group  
Containers/UBF8T346G9.Office/User  
Content.localized/Templates.localized/Normal.dotm

表題 :

副題 :

作成者 : kawahata yoshitomo

キーワード :

説明 :

作成日時 : 2024/01/10 22:52:00

変更回数 : 2

最終保存日時 : 2024/01/10 22:52:00

最終保存者 : 善智 川畑

編集時間 : 1 分

最終印刷日時 : 2024/01/10 22:52:00

最終印刷時のカウント

ページ数 : 4

単語数 : 4,168

文字数 : 619 (約)